令和７年度 四国地方ダム等管理フォローアップ委員会
議事録

１．日 時：令和７年１２月８日（月） １５：００～１７：００
２．場 所：高松サンポート合同庁舎 南 101大会議室
３．出席者：委　員　森脇委員長、石川委員、一色委員、河合委員、上月委員、中澤委員、
　　比嘉委員、吉冨委員
　　事務局　四国地方整備局河川部長、河川情報管理官ほか

４．配布資料

資料－１	議事次第
資料－２	出席者名簿
資料－３	配席図
資料－４	「四国地方ダム等管理フォローアップ委員会」規約
資料－５	令和７年度の審議内容
資料－６	個別課題検討会の意見概要
資料－７－１、２	石手川ダム定期報告書（案）概要版、本編
資料－８－１、２	野村ダム　定期報告書（案）概要版、本編
資料－９－１、２	鹿野川ダム定期報告書（案）概要版、本編
資料－１０	野村ダムモニタリング委員会審議結果
資料－１１	令和８年度の予定等

５．議事
１）審議内容の説明（確認事項）
ダム等の管理に係るフォローアップ制度の概要及び本委員会での審議内容について、
事務局より資料－５により説明。
２）石手川ダム定期報告書（案）（審議事項）
各課題検討会における委員からの意見概要（資料－６）を踏まえ、石手川ダムの定期報告書（案）について、事務局より資料－７により説明し、審議を実施。
３）野村ダム定期報告書（案）（審議事項）
各課題検討会における委員からの意見概要（資料－６）を踏まえ、野村ダムの定期報告書（案）について、事務局より資料－８により説明し、審議を実施。
４）鹿野川ダム定期報告書（案）（審議事項）
各課題検討会における委員からの意見概要（資料－６）を踏まえ、鹿野川ダムの定期報告書（案）について、事務局より資料－９により説明し、審議を実施。
５）野村ダムモニタリング委員会審議結果（報告事項）
野村ダムのモニタリング委員会審議結果について、事務局より資料－１０により報告。
６）令和８年度の予定等（確認事項）

令和８年度（来年度）の予定等について、事務局より資料－１１により説明。

６．審議事項に対する各委員からの主な意見（以下（事）は事務局の説明）

１）石手川ダム定期報告書（案）について

（１）カビ臭発生のメカニズムについて、どこまで確からしいものであるのか。また、水質汚濁防止フェンスはそもそも何のために設置し、どの程度効果があったのか、そして撤去によってどの程度効果が失われたのか、撤去したことにより悪い影響が出ていないのか。

（事）フェンス撤去前はジェオスミンの発生が毎年起こっていたものが、フェンス撤去後は2年から3年に1度程度となっているため、現在の状況が正解に近いのではないかと考えている。フェンス撤去による効果・デメリットについては、令和3年にかなり大きなアオコが範囲で発生したが、それ以外では大きなアオコにはなっていないということを踏まえて、フェンス撤去による弊害は小さいのではないかと考えている。

（２）カビ臭発生のメカニズムの概念図と記載しているが、仮説図とした方が良いのではないか。また、水質のまとめの部分について、フェンス撤去による弊害が無かった旨を記載した方が良いのではないか。

（事）ご指摘のとおり修正させていただきます。

（３）令和2年度の現地検討会で土砂還元の話が出たかと思うが、その後のどのような検討をされたのか教えてほしい。また、河川環境の定量目標も含めて検討を進めて欲しい。

（事）現在、四国で土砂還元を実施しているのは那賀川である。また、銅山川3ダムにおいても同様のご意見を頂いており、検討が始まったところである。土砂還元は下流河川での土砂堆積等の問題もあるため、地元等の関係機関との調整もふくめて今後検討を進めていきたいと考えている。

（４）主要洪水の実績表は石手川で発生したものか、重信川を含めたものか。浸水が発生しているのは主に重信川の流域だと認識しているが、石手川ダムでどの程度防ぐことができるか、何かしら見通しが必要だと考える。石手川ダムの洪水調節にも限界があるため、重信川で対策をしないと浸水を防止することができないということをはっきりさせておくべき。

（事）重信川も含めた全体の実績を示している。今後も整備計画に則り、各種取り組みを進めてまいりたい。

２）野村ダム定期報告書（案）について

（１）生物の種リスト中の学名の記載については、イタリック体・ローマン体の使い分けは適切に表記されていない箇所があるため精査されたい。

（事）精査して修正する。

（２）特定外来生物（アカウキクサ、オオフサモ）に関しては、個体数が少ないうちに駆除する方が費用対効果が高いので、経過を見守らず駆除を実施されたい。
（事）湖面の浮遊物を回収する際に特定外来生物である浮草も回収を行っていく。

（３）水質調査計画に今回追加された深層曝気施設の実証運用時調査には、施設の運用を停止しての調査も計画に含まれているか。
（事）現段階では計画に入っていないので、今後、実施を検討したい。

（４）土地利用別の面積より面源負荷量を算出すれば、負荷源対策の参考となる。
（事）今後、負荷源の調査・確認に努めていきたい。

３）鹿野川ダム定期報告書（案）について
（１）環境基図調査よる環境エリア区分ごとの面積に変化がみられているとのことだが、どのような変化がみられているか。
（事）平成30年7月豪雨後に一旦増えた裸地が令和6年度調査においては減少している傾向を確認しており、今後もこれらの変化を注視していきたい。

（２）鹿野川ダムは日本有数のオシドリの飛来地であるため、もっとアピールするべきである。また、飛来数は5年前に完成した横瀬川ダム、建設中の山鳥坂ダムといった新たな水環境の形成の影響を受ける可能性がある。
（事）オシドリウォッチング等について広報していきたい。

（３）山鳥坂ダムが将来できるが、できてしまってからの整備は難しいので建設時に遊歩道や展望台を整備しておくとよい。鹿野川ダム・野村ダム・山鳥坂ダムの3つのダムでダム巡りができるようになるのは魅力である。
（事）3つのダムそれぞれで魅力的なところを合わせて、多くの人々に訪れていただけるような環境を目指して整備等を進めていきたい。

（４）深層曝気装置や高濃度酸素水供給装置による効果として溶存酸素濃度の鉛直分布により底層DOの改善がみられているとの説明があったが、環境面や水質面での改善はみられているか。
（事）運用開始以降、底質からのマンガンやリンの溶出が抑制されていることを確認している。

（５）ダム堤体付近にあるマウンドができた時期はいつ頃か。また、今後もしなくなると上流側の貧酸素水が流れ込んでくることになり、現行施設で対応が不可能な可能性もある。現行施設による効果を見込んでおいた方がよい。
（事）マウンドの形成時期は不明である。施設運用による効果については、今後確認していき

たい。

（６）現在、鹿野川ダムは渇水ということだが、原因は何か。
（事）今年の11月の降雨量が例年の半分程度であったことが原因である。

（７）生物のまとめにおいて、止水性魚類としてスゴモロコが例示されているが、国内外来種であるため不適切ではないか。
（事）記載内容を検討する。

７．報告事項に対する各委員からの主な意見（以下（事）は事務局の説明）
１）野村ダムモニタリング委員会審議結果について
特に意見は無し。

８．審議結果
石手川ダム定期報告書（案）について審議した結果、以下の結論を得た。
石手川ダム定期報告書（案）については、適切に分析評価がなされており、今後の方針についても具体的であり妥当である。
野村ダム定期報告書（案）について審議した結果、以下の結論を得た。
野村ダム定期報告書（案）については、適切に分析評価がなされており、今後の方針についても具体的であり妥当である。
鹿野川ダム定期報告書（案）について審議した結果、以下の結論を得た。
鹿野川ダム定期報告書（案）については、適切に分析評価がなされており、今後の方針についても具体的であり妥当である。

以上